



### MCと授業

他にも意味はあるようですが、MCとは(司会、司会者、番組進行役(master of ceremony))のこと。TVでは、冠(かんむり)番組なる言葉があり、『さ●まさん』や『雨上●り決●隊』。関西ローカルでは『上●患●子さん』、最近では『出●哲●さん』などが活躍されています。



以前、新聞の記者の意見欄で読んだことがあります。その方いわく、「自分を前面に押し出したMCよりも、ゲストの特徴や売りを生かしたMCの方が好感が持てる」というふうなことを書いていました。(私はそうは思いませんが)

理想の上司や先生は誰?というアンケートをよく見かけます。もちろん俳優やタレントさんの名前が挙がっています。では、理想の先生の授業ってどんなイメージを皆さんはお持ちでしょうか? それこそ自分の生き方や考え方に大きな影響を与えてくれたとか、絶望の淵から救ってくれたとか、そこまで重く深く考えなくても結構。とにかくよくわかり力のつく授業のイメージは、百人百様、十人十色、千差万別でしょうね。



例を挙げて具体的に、**おずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく**(注:『井上ひさし』さんの有名な言葉です)説明することもしかり。口先だけでとやかく言うだけでなく、**やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめて**(注:これは『山本五十六』さんの言葉を拝借)育てていくのもしかり。**子供**

**ていうのは、可能性の生き物。たくさんの選択肢を、毎日持ってる**(注:同様に『宮崎駿』さんから)ことを期待し、一人一人を伸ばしていくこともまたしかりと…。

担任が45分間の授業を行う様は、MCの要素と側面を持っているのかもしれません。それが教科や活動内容によって使い分けなければならないとすると大変なことです。そのスタイルがどうであれ、子供にとって魅力ある授業の本質・根幹は、不易だと思えます。

